



健康寿命を
のばそう!
AWARD
優良賞

県民参加型受動喫煙防止による健康作り創出モデル イエローグリーンキャンペーン

受賞者

一般社団法人Tobacco-freeふくしま
(福島県いわき市)

取組アクション



●「イエローグリーンは、大切な人をタバコの煙から守りたい。あなたの心の色」

背景・概要

福島県の原因別死亡割合の50%以上はがん、心疾患、脳血管疾患といった生活習慣病である。がんや生活習慣病は喫煙と密接に関係があり、喫煙・受動喫煙の影響は発癌の3分の1を占める。当団体は、市民公開講座や企業、小中学校でのがん教育・禁煙教育を実施し、生活習慣病の予防や改善、タバコ問題の啓発活動を継続してきた。しかし、令和元年の国民生活基礎調査では福島県の喫煙率が全国ワースト3位という結果であり、県民の健康寿命の延伸にはこれまで以上の啓発活動が重要と考えた。イエローグリーン運動は各地で実施されていたが、この運動を福島県でも展開し県民への認知向上につなげたいと考えた。

取組内容

●医療機関からプロスポーツクラブまで

・ライトアップ

いわき市内の医療機関・企業を中心に始めたライトアップは、県内各地に広がり40施設を超える医療機関や企業、施設がライトアップに参加するようになった。

・山形とのコラボレーション

山形とコラボレーションし、受動喫煙防止・禁煙に関する全国配信の市民公開講座を実施した。

・福島県内運行の全タクシーにリボンステッカーを装着

福島県タクシー協会と協働し、加盟の全タクシー車両2500台が、イエローグリーンリボンステッカーを貼り県内を走行するという全国初の取組を行った。

・啓発ポスターの掲示

福島交通バスにて福島市内を走行する全てのバスの中吊り広告に啓発ポスターを掲示した。

東北ゴルフ練習場協会加盟東北24施設とゼビオコーポレート株式会社は各店舗に受動喫煙防止啓発ポスターを掲示した。

・いわき市内のショッピングセンターでの啓発イベント

いわき市内3カ所のショッピングセンター(イオンモールいわき小名浜、ラトブ、鹿島ショッピングセンターエブリア)では、禁煙週間である6月4日に啓発イベントを同時開催した。このキャンペーンには、保健所職員やいわき市のゆるキャラ「フラおじさん」が参加し、幅広い年齢層へ受動喫煙防止の認知向上につなげた。

・イエローグリーンゼリーの販売

いわき市内の洋菓子店にて禁煙週間期間中、イエローグリーンゼリーを販売。

・プロスポーツ界との協働

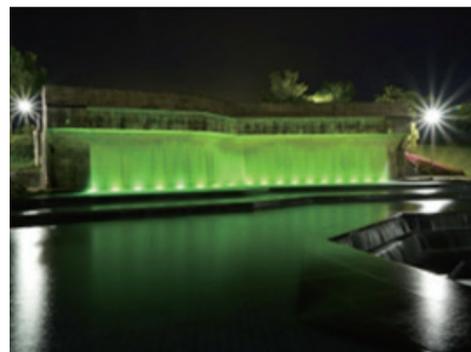
明治安田生命J3リーグでは、5月29日いわきFC、6月5日福島ユナイテッドFCのホームゲームでイエローグリーンマッチを開催、今後は1部リーグ昇格目前のバスケットボールチーム福島ファイヤーボンズとも協働する予定である。



↑イエローグリーンリボンステッカーを貼るタクシー



↑ショッピングセンターでの啓発イベント



↑イエローグリーンライトアップ

成果

●福島県内に確実に広がるイエローグリーンキャンペーン この活動の中で小学生の夏休みの課題として、受動喫煙防止に関する川柳を募集、ヨークベニマル主催のハートフルサタデーでは献血活動に参加するなど、福島県のイエローグリーンキャンペーンは、多くの企業の協力により拡大を見せている。福島県医師会や福島県の支援がキャンペーン拡大の大きな力となっている。禁煙だけを声高に叫ぶのではなく、受動喫煙防止を訴えかけることにより喫煙率を減少させ、健康寿命を延ばす活動を継続していくことで貢献している。

評価委員による講評：斎藤 敏一

今回の、受動喫煙防止の啓発を目的とする、福島県でのイエローグリーンキャンペーン(リボン、ライトアップ)活動は、県民運動として、県医師会、自治体、多くの企業、賛同団体とともに県民全体に働きかけることができた好事例だと思います。特に、福島県タクシー協会が参画した2,500台のタクシーが受動喫煙防止の啓発に取り組んだことは圧巻であり、他の自治体の模範となる非常に意義のある先進事例だと思います。従来、政府主導で取り組んできた受動喫煙防止対策が、今回の「Tobacco-free ふくしま」の取組のように、公民連携で地域資源を活用し展開されることを心から期待しています。